

## 地域包括ケアシステムにおけるコンビニエンスストアとの協働モデルの構築 —産官学連携による Community-based Participatory Research の実際—

東京大学大学院医学系研究科

五十嵐 歩

本演題では、Community-based Participatory Research (CBPR) の実践事例の紹介を通じて、家族看護学研究へのCBPRの適用可能性について検討した。

高齢化が進む我が国において、コンビニエンスストア（コンビニ）は高齢者の生活を支える重要な役割を担っている。筆者らの研究グループは2017～2020年度、東京都練馬区においてコンビニと協働した地域高齢者への支援のモデルを構築することを目的に、産官学連携によるCBPRに取り組んだ。研究メンバーは、筆者ら大学所属の看護系研究者、コンビニ店舗の経営者、介護事業所の経営者ら、自治体職員を中心に構成された。

ニーズ調査により、コンビニが地域で暮らす高齢者の生活を支える重要な役割を担っている実態が明らかとなった一方、認知症と思われる高齢の顧客に

対して、コンビニ店員がどう対応すればよいのかが分からないといった困難を抱えていることが分かった。そこで、コンビニ店員の認知症への理解を深めて高齢者への対応にいかしてもらうこと、困った時に相談できる地域包括支援センター等の専門機関との「顔の見える関係」を作ることを目指す活動を行った。コンビニ責任者および地域包括支援センター管理者を対象とする質問紙調査の結果、活動によってコンビニと地域包括支援センター間で「顔の見える関係」が構築され、高齢顧客に関する相談などで連絡を取り合う回数が増加する効果が示された。

今後、認知症のある人の家族への支援に関するアクションと評価を含めることで、家族看護学の視点をもった研究として発展させることが課題である。